

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号:10 事業名: 乳用牛群検定推進事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
諸平アドバイザー	<p>農家同士の横のつながりで、牛群検定が普及していくような仕組みがあれば良いと思うがそのことに関して、どのように考えるか。</p> <p>検定加入農家が増えず、苦戦しているように思えるが、現在の加入戸数で十分な活動ができているとするのは、違和感がある。どういう風にすればもっと加入農家が増えるのか検討すべきではないか。</p>	課長・鎌田 健義	<p>富士河口湖町管内の酪農家で、2回/月程度の勉強会を開催しており、その中で、牛群検定に加入している農家から、未加入農家に対して、検定への加入を推進して頂いている状況である。</p> <p>事業実施主体と連携し、未加入農家に対しては、牛群検定のメリットをPRするチラシを配布し、興味を持った農家に対して牛群検定データを活用した乳量改善についての研修会を開催することにより、酪農家の意識の向上に努め、加入農家の増加を図っていく。加入農家に対しては、検定情報を活用した指導を強化し、加入を継続していく取り組みを行っていく。</p>
五味アドバイザー	<p>検定頭数ベースでの加入率はどの程度なのか。やっていない酪農家は零細農家で、廃業していくような農家なのか。</p> <p>牛群検定の推進方法については、今のままで良いのか。検討していく必要があるのではないか。</p>	課長・鎌田 健義	<p>検定の加入非加入で農場の飼養規模に差はない。</p> <p>今後、検定のPRをしつつ、検定員の育成も視野に入れていくことが必要であると考えます。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
五味アドバイザー	<p>仮に、もっと検定加入農家が増えた場合、財源として牛乳売払収入が足りなくなる可能性があるのか。それが足枷となって検定加入の推進が出来るのか。</p>	<p>課長・鎌田 健義 副主幹・鷹野 由紀 技師・内田 雄祐</p>	<p>現状では、牛乳売払収入は充分足りているため、それが足枷となっているわけではない。もし、急激に検定加入農家が増えて、検定員を増やさなければならない状況になった場合は、事業実施主体等とも協議して方向性を考えていきたい。</p>
小口アドバイザー	<p>とても重要な事業であることは理解した。では、今後どうやって推進していくかと言うことを伺いたい。現状の検定員の人数で対応可能な戸数はどのくらいか。</p> <p>平成26年度には、15戸という、実績があるので、少なくとも15戸を目標に事業を推進していくべきではないか。</p>	<p>課長・鎌田 健義</p>	<p>現在2名の検定員で対応している。それぞれの担当は、8農場と5農場。あと3農場は増やせると考えられる。</p> <p>1戸でも多くの農家に検定に加入して貰えるように、今後も事業に取り組んでいきたい。</p>